しまなみ農業だより

カンキツ苗の管理

春先に植え付けたカンキツ類の苗木は、新芽が出て、順調に生育を始めている時期かと思います。苗木を早く育てるため、植え付け1年目の苗木管理のポイントについて解説します。

1 苗木の生育促進には根張りが重要

植物の根は、樹を支え、生育に必要な養分・水分を吸収する重要な器官です。カンキツの根は年間3回発生しますが、根を大きく張らせるためには、①排水のよい肥えた土壌である、②水と肥料を年中不足させない、③健全な枝葉を大きく育てることが重要です。

2 植え付け時の注意

カンキツ類の苗木は、実を成らせる品種部分と根になる台木（カラタチ）で構成されています（写真1）。植え付け時の注意として、植え付け時に台木上部まで土に埋まらないように注意してください。品種部から自根が発生すると生育が旺盛になり実付が悪くなったりします。台木部まで埋まっていたら、台木部が露出するよう株周りの土を除けてください。

1年生苗木（3月）

3 肥培管理

施肥は、5月頃から毎月、少量（軽く一握り）の肥料を株から少し離して撒いてください。液体肥料の500～1000倍液を葉に散布するのも有効です。肥えた土にするためには、冬季に堆肥や腐葉土などの有機物を施用します。苗木の水やりは、根が浅く少ないので、降雨がなければ1週間に1度たっぷりやってください。また、雑草の繁茂は苗木の生育抑制や害虫（カミキリムシ、コウモリガなど）被害で枯死することがあるので、株周りだけでもこまめに除草し、乾燥防止と抑草を兼ねて敷き草などを行うとよいでしょう。

4 健全な枝葉を育てる

カンキツ類の新芽は、年間3回発生します。春に葉の付け根から数本新芽が出てきた時は1本だけ残し、早めに芽かき（除去）をして枝を充実させます。夏芽以降（7月）は2～3本程度に芽かきをして葉数を確保しましょう。また、新芽は、害虫被害により生育が阻害されることがあるので、適期に農薬散布を行うか、ケムシなど大きな害虫は手で除去します。苗木に発生する主な害虫類は、アブラムシ類、アゲハチョウ（幼虫）、ミカンハモグリガ（エカキムシ）、ケムシ類が挙げられます。アブラムシ類は、4月～6月の新芽時期に発生します。アゲハチョウは、5月以降の新芽に産卵し、多発生すると新芽を食い尽く程の被害となります。ミカンハモグリガは、6月以降に発芽する新芽に被害が発生し、新芽の成長が抑えられ、かいよう病を誘発するので注意します（写真2参照）。生育をよく観察し、適期に対策を講じてください。

▲ミカンハモグリガ被害　▲アゲハチョウ若齢幼虫

表1　カンキツ苗木の害虫防除法

病害虫	農薬名	倍数	方法
アブラムシ ミカンハモグリガ	モスピラン顆粒水溶剤	4000倍	散布
	ダントツ水溶剤	4000倍	散布
ミカンハモグリガ アゲハチョウ	エクシレルSE	100倍	散布（100cc/株）
	エクシレルSE	5000倍	散布
	スピノエースフロアブル	6000倍	散布
ミカンハモグリガ	アクタラ粒剤5	30g/株	株元散粒

※エクシレルSE100倍散布は1ケ月以上の残効が期待できます。

令和４年度全国統一防火標語
「お出かけは　マスク戸締り　火の用心」

令和4年度 上島町総合防災訓練の実施について

令和4年度上島町総合防災訓練を、次のとおり実施いたします。

日　時　　5月29日（日）午前8時～（少雨決行）
場　所　　上島町全域

※予備日　6月5日（日）午前８時～
※訓練を延期する場合は、当日の午前6時30分に決定し、町内放送で周知します。
※午前8時に訓練開始の一斉放送を行います。

災害に備えた自主防災組織活動 2

久保の谷・中の谷自主防災会、5分団自主防災会（生名地区）

先月に引き続き、町内の自主防災組織の活動をご紹介します。2月26日に久保の谷・中の谷自主防災会、3月6日に5分団自主防災会が訓練を行いました。当日は、感染症対策を行いながら、一時避難場所の運営や、チェンソーなどの資機材を用いた救出救助のための訓練を実施しました。また、かまどを用いた本格的な炊き出しも行われ、災害が起きた際に地域でどのような活動をするのかを確認しました。

今月末には、防災訓練が実施される予定です。防災マップや避難経路の確認をすませておきましょう。

▲AEDを使用した救命訓練

▲搬送訓練

▲チェーンソーを利用した訓練

▲炊き出し訓練

令和４年３月出動件数

地区	弓削	生名	岩城	魚島	その他	合計	R４累計
火災	0	0	0	0	0	0	1
救急	19	10	6	3	0	38	112

（令和４年３月31日現在）

上島町消防本部・消防署　☎77-4118
消防防災課　☎77-3166

▲夜間訓練